



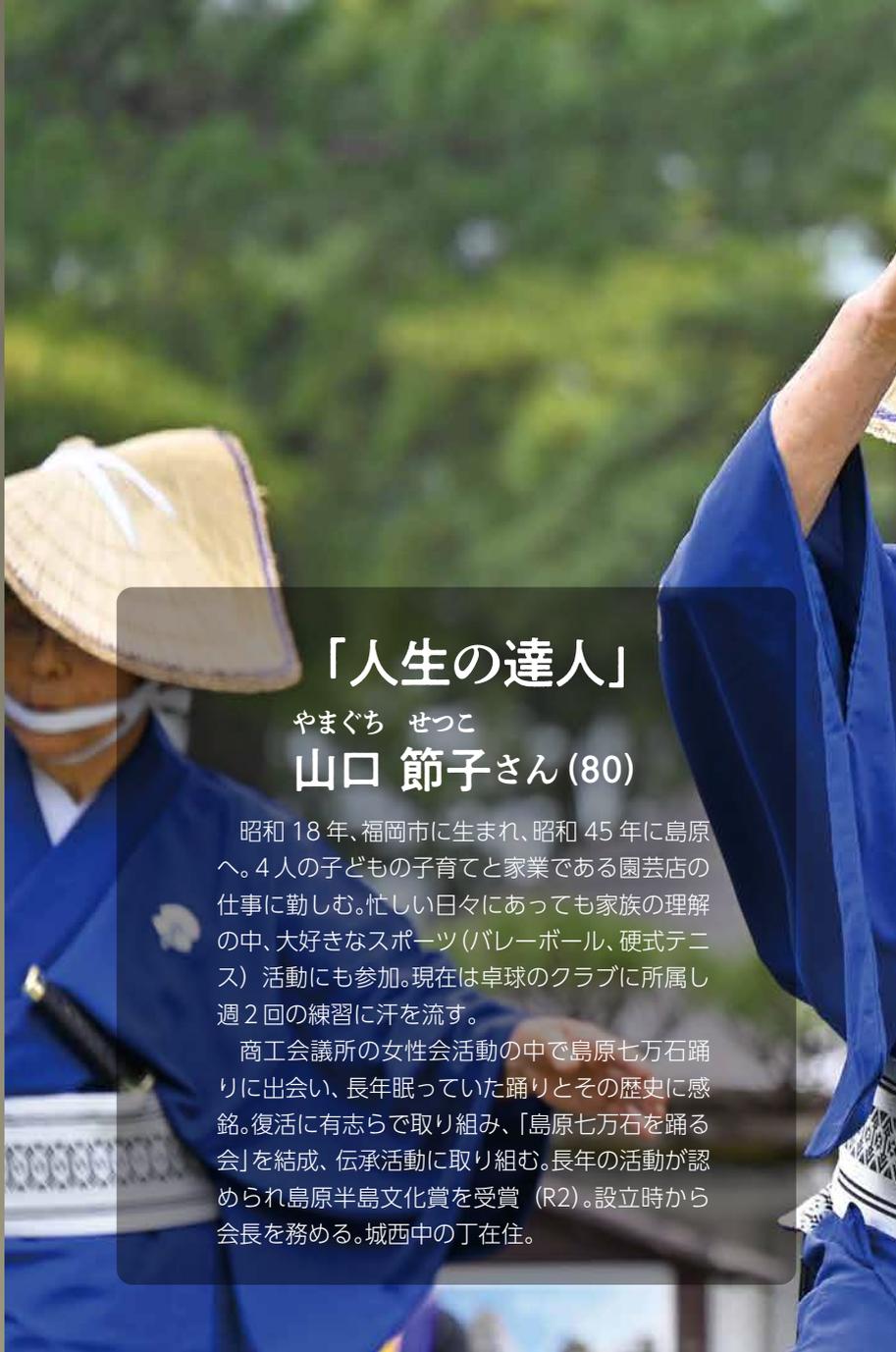
島原藩主深溝松平家墓所がある愛知県幸田町本光寺での踊り  
(令和4年11月)



島原七万石を踊る会の皆さん



「重ね扇」の着物姿で真剣に踊る子どもたち



## 「人生の達人」

やまぐち せつこ

### 山口 節子さん(80)

昭和18年、福岡市に生まれ、昭和45年に島原へ。4人の子どもの子育てと家業である園芸店の仕事に勤しむ。忙しい日々にあっても家族の理解の中、大好きなスポーツ(バレーボール、硬式テニス)活動にも参加。現在は卓球のクラブに所属し週2回の練習に汗を流す。

商工会議所の女性会活動の中で島原七万石踊りに出会い、長年眠っていた踊りとその歴史に感銘。復活に有志らで取り組み、「島原七万石を踊る会」を結成、伝承活動に取り組む。長年の活動が認められ島原半島文化賞を受賞(R2)。設立時から会長を務める。城西中の丁在住。

### 伝統を次の世代へ

現在、踊る会では二十数名の会員と賛同する市内3つの保育園で活動しています。「次の世代に継承していくために、保育園への指導に力を入れています。踊りは武士の節度ある姿を意識し、凛とした優美さが特徴です。練習では緊張感もあり、子どもたちが落ち着きや協調性を身に着けるよい機会にもなると考えています。唄と踊りを通じて島原の歴史や文化を学び、伝統を継承することで、故郷への誇りと愛着が形成されることを願っています。」と、思いを語ります。

6月10日(土)には子どもたちの発表の場として、「第二回島原七万石を踊る会 ちびっこ百人踊り」を島原城西の櫓前で開催しました。「子どもたちの着物は数年前に、皆さまからのご支援をいただいで揃えさせていただきました。島原藩主、松平家の家紋「重ね扇」の着物を着る機会はほとんどありません。袖を通した子どもたちはとても嬉しそうにしてくれます。みんな一生懸命、上手に踊ってくれました。」と、笑顔で語る山口さん。

今後の展望については「会の運営も皆さんの協力があるとのこと。私は今できる事を頑張るだけです。70年以上の歴史がある島原七万石踊りが郷土に誇る伝承芸能として、子どもたちと市民が一緒になって親しまれ、島原半島に鳴り響く日を思い、愛着されていくことを願っています。」と、語っていただきました。